環境大臣賞（優秀賞）

僕が守りたい風景、きれいな水

滋賀県 近江兄弟社中学校 一年 福岡京

「本当にきれいな水とは何なのか。」人間にとって、飲める水こそが、きれいな水かもしれませんが、生き物にとってはきれいな水とは言えないのではないか。水道水は殺菌作用がある塩素が使われています。さらに、この森の川のことを調べました。もちろん水道水は使われていません。愛知川（えちがわ）の川底の砂利層により自然に浄化されたものを伏流水と言い、それがわき水となって、森のあちこちに小さな流れが川になっているそうです。その仕組みをやっと理解できました。生き物たちにとってきれいな水とは、有害物質の含まれていないことはもちろん、エサとなるプランクトンが豊富にあることもきれいな水の条件です。植物、海や川底で生きる魚たち、昆虫、動物たちにとってそれぞれが、安全に暮らせる水、きれいな水はひとつではないと僕は思います。

　そのためにできることもひとつではないのです。そこで、家族できれいな水にするためにできることを考えました。僕ができることは、外出先や川などにゴミを捨てない。ゴミがあったら拾う。食べ残しをしない。食器の汚れはふき取ってから、歯をみがく時も水を止めてむだにしない。洗剤を使いすぎない、お風呂やシャワーの時もむだにしない。今日からできることを始めることです。日ごろから、水に困っていないと、つい水の大切さを忘れてしまいます。

　きれいな水を守りたい。みんなできれいにしようとする「想い」を忘れないようにしたいです。ひとりひとりが水を大切にすることができれば、その水を取りまく環境を守ることができます。この先、自然や生き物、人間たちがうまく共生し続けることで、十年後二十年後にホタルがたくさんいる風景を見ることができるはずです。僕はこれからも自分から水の大切さを発信し続けたいです。

　僕の小学校の裏には、小さな川があります。そこでは五月下旬から六月中旬にホタルを見ることができます。家の近所には小さなエビがたくさんいるところや、田んぼに続く用水路にはザリガニがとれる特別な場所もあります。僕は生き物と自然あふれるこの町が大好きです。

　ホタルを守る取り組みについて、看板が川岸に立てられています。産卵の時期には、あえて草刈りをひかえて、地域の方々が繁殖を守る活動をしてくれているようです。そのおかげでホタル鑑賞ができています。その時に聞いた話では、ここはホタルのエサとなるカワニナや草木、砂もあり生息するのに最適な場所であること。また、滋賀県に生息するゲンジボタルは卵から成虫になるまでに約一年かかり、成虫の間は水しか飲まず、メスは産卵した後は二、三日で一生を終えることでした。幼虫の約十ヶ月間、水の中でカワニナやタニシなどを食べながら成長していきます。一生の大部分を水の中で生きているので、きれいな水とエサが豊富であることが大切だとわかりました。たくさんの小さな光が飛び交いながらゆらゆらと幻想的な風景を見て、僕は自然の大切さと、このきれいな水を守りたいと思いました。ただ、僕が小学一年生の時に見たときから比べるとホタルの数が年々減っているような気がしました。

　小学三年生の時、河辺いきものの森で里山保全に参加しました。夏の活動では水質保全や自然観察の目的で、川に入りました。その時に水の生き物を知り、水はどこからどうやって来ているのかを、勉強をしました。その時の僕は、難しい話よりも目の前にある川でサワガニを発見したり、水生昆虫をつかまえることに夢中でした。今となっては、生き物がたくさん生息している環境がとても大事であることに気がつき、その経験がきれいな水とは何なのかを考えるきっかけとなりました。